様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２２ 日現在

機関番号：３３９１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０１１９

研究課題名（和文）音楽基礎教育としての独創的なソルフェージュ教材開発に関する総合的研究

研究課題名（英文）The new method of solfege - The development and the prospects for the basic training for the education of the classical music.

研究代表者
舟橋　三十子（FUNAHASHI, Mitoko）

名古屋芸術大学・音楽学部・教授

研究者番号：００３６０２３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：　ソルフェージュは重要な音楽基礎教育であり、近年、その重要性に対して、日本でも関心が高まってきている。
　この研究では、数回の渡仏により、最近のフランスで主流になっているフォルマシオン・ミュジカルの授業を、実際にコンセルヴァトワールで体験し、教授陣から情報を得た。その結果、我が国でもソルフェージュに替わるものとして普及させる必要性を感じ、現地で使用されているテクストや図書資料を入手した。
　これらの研究を基に、フォルマシオン・ミュジカルの考え方を日本の現状に合わせた３冊の著書、２編の研究紀要を書き、ホームページを作成し、講座等でそれらの普及に努めた。

研究成果の概要（英文）：Solfege is the most important and basic training for the education of the classical music. In recent years in France, the new method called "Formation Musicale" is the main way of musical training which is replaced as solfege.
The concept of "Formation Musicale" is to use the works of famous composers as the educational means. It is included dictations, theory, analysis, history, composition and accompaniment with instruments. In my research I went to France to accept lessons of Formation Musicale and get informations from the professors in conservatoires in Paris.
As a result of the research, I wrote three text books of Formation Musicale and the two research bulletins of Nagoya University of Arts. In addition, the web site of publishers I put web articles 12 times about Formation Musicales. In public lectures as well, I had lectures in November 2014, Kawai music classroom in October 2015 and the Asahi Culture Center (October 2015, November, March 2016, a total of three times).

研究分野：音楽基礎教育としてのフォルマシオン・ミュジカルとソルフェージュ

キーワード：ソルフェージュ　フォルマシオン・ミュジカル　聴音・新曲視唱・新曲視奏　音楽基礎教育　教材開発　パリ音楽院　コンセルヴァトワール　フランス

１．研究開始当初の背景

日本の音楽基礎教育としてのソルフェージュは、音楽大学、音楽高校、総合大学への音楽コースへの入学試験に必要な受験科目のひとつと考えられてきた。長年、このソルフェージュという言葉から「聴音」や「新曲視唱」だけの訓練を意味し、俗に「聴ソル」と呼ばれ、２つでセットになっているのが現状である。また従来の音楽大学の教育では、聴音や新曲の課題を、数多くこなすことを徹底的に訓練することによって、ソルフェージュ力がつくと言われてきた。このように、機械的な訓練の一環としてソルフェージュが行われてきた結果、日本人の音楽家は音楽性が乏しく、音楽を自発性、積極性を表現することが得意でないと言われてきた。このことは、今までの画一的なソルフェージュの教育方法にも、その一因があるのではないだろうか、と大学のソルフェージュのクラスを受け持ちながら、常日頃、授業の在り方や、教育方法、教材等に疑問をもっていた。

1985 年頃、ちょうど渡仏する機会があり、パリで、新しいソルフェージュとしてフォルマシオン・ミュジカル Formation Musicale という考え方が広まっていると言う話を聞き、ソルフェージュの新しい方法を模索している時期でもあったので、この考え方についての情報を、楽譜店や在仏の音楽家を通して収集し始めることになった。

フォルマシオン・ミュジカルは、1980 年頃から、古今東西の大作曲家の実作品をテクストに用いて、幅広い観点から音楽にアプローチし捉えていこうという考え方として普及し、現在では従来のソルフェージュという名称に取って代わっている。この教育方法の結果、フランスでは、現場の音楽教師の意識が、それまでの実技偏重から脱却しつつあり、この音楽を幅広い視点から俯瞰するという考え方を身につけることによって、広い視野から音楽を教えることの重大さを感じ取ることが教師に期待されているという。このフランスの現状を、そっくりそのまま日本の音楽基礎教育に当てはめることは難しいが、現在の日本のソルフェージュ教育を、総合的な音楽基礎教育として、現状に即した体系に整備し直す必要があると思われた。

２．研究の目的

ソルフェージュは、西洋音楽を学習する上で、専攻実技と平行して学ぶことによって演奏の練習を支え、 推進していく重要な基礎教育である。しかし、これまでの音楽基礎教育が、実技偏重な不均衡さに陥りがちであったことに対する反省から、近年、音楽基礎教育としてのソルフェージュの重要性に関心が高まってきている。

「楽譜を読む」とは、「文字を読むこと」と同義であり、ソルフェージュ教育では「読譜」と言われる基礎的な訓練である。聴いて覚えるという教育方法もあるが、複雑な曲や長い楽曲では、記憶を頼りに演奏することは不可能に近い。音を聴くだけでなく、音を読み、書き、歌うことも、基礎訓練のひとつである。

日本では、学問の基本として「読み・書き・そろばん」と昔から言われているが、この中での「読み」は、まさに読譜であり、「書き」は音符の記譜、「そろばん」は演奏に相当する。このような基本が、勉学の世界だけでなく、音楽の基礎教育にもあてはまることは、世界共通の認識であることが理解される。

従来の日本式のソルフェージュだけでは不足している視点を補うため、今後の日本のソルフェージュ教育では、多角的な視点から教えることが必要である。そこで、この研究では、自分の専門領域の分野だけを学習するというこれまでの欠点を補うべく、より精緻な教育・教材システムの構築を企図した。

３．研究の方法

フランスで教育方針の刷新が行われるようになった理由や改善点・問題点について、渡仏し、パリのコンセルヴァトワール（音楽院）で、実際に学生と一緒に授業を受け、いくつかのコンセルヴァトワールでフォルマシオン・ミュジカルを教えている教授にも面会し、ソルフェージュの教育方法、考え方、問題点等を聞き取り、明らかにした。現状調査によって、今までの歴史的経緯や、今後の方針、従来のソルフェージュと比較して、それぞれの長所、短所を明らかにすることができた。また、多くの楽譜店で購入できるフォルマシオン・ミュジカルのテクストをできる限り購入し、日本での紹介や、日本のテクストと比較しての利点、欠点等を洗い出して、我が国の学生のレベルに合わせて使用できるように考え、ソルフェージュの授業で用いてみた。

ドイツ語圏における状況については、研究分担者がチューリヒ高等音楽院を２度視察することを要望し、フォルマシオン・ミュジカルとの関わりを調査するように依頼したが、残念ながら研究分担者の力量不足や非協力的な研究姿勢もあり、研究に結びつく情報は得られなかった。

フォルマシオン・ミュジカルの考え方を初めて日本に紹介したテクストとして、拙訳の「シューベルトを歌いながら学ぼう」全３巻（M.O.ジロー著、A.Leduc 社）がある。その後、同じ著者・研究代表者の訳によって、「モーツァルトを歌いながら学ぼう」全２巻、「シューマンを歌いながら学ぼう」全４巻の日本語版が出版された。これらは、多様な方法で大作曲家の作品にアプローチをし、音楽家として幅広い音楽性と教養を身につけることを目指している。しかし、もう少し易しい教材の必要性から、「音楽家への第一歩 入門コース・ 基礎コース」全８巻（J.P.クーロ著、A.Leduc 社）の日本語版が出版された。

これらフランスのテクストは、学習の対象

として日本人には馴染みのないフランスの童謡を用いることが多かったため、拙著「ミュージック・トレーニング」全２巻（全音楽譜出版社）がさらに執筆された。これらの著書は、日本の学生のレベルと授業内容を考慮して構成され、書かれたものである。このテクストの特長は、楽器聴音としてピアノだけでなく、フルートとヴァイオリンも加え、CDを付け、音楽史の流れも体得できるよう、問題を年代順に配置した点である。

フランスでの情報交換によって、独自の教材開発と新たな指導方法の確立をすることができ、その最初の段階として、日本人にあったテクストの作成を実現することができた。

このテクストは、フランスのフォルマシオン・ミュジカルの考え方を、日本の実情に即した内容に再構築した、最終的にはオリジナルな教材集であると言えるであろう。このテクストを使用することによって、以下の４点が成果として現れた。

（１）現在の音楽教育は、学生が時間をかけて作品を練習し、その上でレッスンを受けるという形態であるが、この新しい指導法を用いることにより、読譜力がつき、初見視奏の力が開発された。

（２）独奏曲を中心とした従来のレッスンでは得られない、「アンサンブル(合奏)」の能力が備わった。

（３）古典から現代までの幅広い範囲の楽曲を、専攻楽器が異なる学生を対象とした授業の中で演奏することによって、他の演奏者の音を聴いて自分の役割を理解した上で演奏する能力を養うことができるようになった。

（４）PDCA サイクルの活用によって、計画的かつ効率的に授業を進めることができ、この指導法および教材で教育を受けた音楽家は、総合的な音楽の基礎能力が身につき、ひいては日本の音楽界全体の演奏のレベルアップが期待できるようになった。

４．研究成果

（１）「新しいソルフェージュ～フォルマシオン・ミュジカルへの展望」名古屋芸術大学研究紀要（2014）

（２）「フォルマシオン・ミュジカル～名曲で学ぶ音楽の基礎 全２巻～楽典・ソルフェージュから音楽史まで」音楽之友社（2014）

上記の３冊は、学習の対象とする実作品の範囲を独奏曲からオペラまでと広く設定し、楽器の種類も増やして執筆された。この著書は、五音音階やジャズ、民族音楽の楽器等にも触れ、従来のソルフェージュの枠を超えたテクストとして書かれている。

（３）WEB 連載「みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～」第１回～第 12 回（2014～2016）

音楽之友社ホームページ上でWEB連載を12回執筆した。毎回、音楽大学や音楽高校の入試問題を教材に、その問題の解答を解説するだけでなく、出題された作曲家の別の作品や、同時代の他の作曲家の作品、音楽史、音楽分析等を一緒に学ぶことができる連載として書かれている。

（４）公開講座「2014 年下半期ピアノ指導法シリーズセミナー第３回『名曲のスタイル分析～ピアノ曲をつかって～』」(2014 年 11 月)

楽曲の分析という視点を、ピアノ曲に限定して行った。受講生がほとんどピアノの指導者という点もあるが、ピアノ曲の成り立ち、作曲家の生涯を、演奏とともに振り返り、学習することがポイントとした。

（５）「新しいソルフェージュ～フォルマシオン・ミュジカルへの展開」名古屋芸術大学研究紀要（2015）

フランスでどのような経過を経て、フォルマシオン・ミュジカルが、ソルフェージュにとって変わられたのか、その背景と流れを、フランスのテクストからの曲を引用して、解説した。

（６）2015 カワイ音研会 10 月例会（公開講座）「新しいソルフェージュ『フォルマシオン・ミュジカル』で音楽性・創造性を育もう～名曲で学ぶ音楽の基礎～」(2015)

ピアノの先生方を対象としたクラスで、フォルマシオン・ミュジカルの考え方を、実際のテクストを用いて講義を行った。従来のソルフェージュとの違い、今後の日本のソルフェージュの将来についてもレクチャーし、質疑応答を行った。

（７）朝日カルチャーセンター名古屋公開講座「名曲から読み解く　クラシック音楽のしくみ」(2015 年 10 月、11 月)

単なる音楽鑑賞ではなく、クラシックの作品が、どのような仕組みで書かれているか、その背景には、どのような歴史があるのか等を解説した。

(８)「クラシックのからくり～『かたち』で読み解く楽曲の仕組み～」ヤマハミュージックメディア（2016）

音楽のからくりがわかればクラシックが理解できるというコンセプトで、楽曲の「かたち」から音楽の構成を徹底分析している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 舟橋三十子、新しいソルフェージュ～フォルマシオン・ミュジカルへの展開、名古屋芸術大学研究紀要、査読無、第 36 巻、2015、191-211

② 舟橋三十子、新しいソルフェージュ～フォルマシオン・ミュジカルへの展望、名古屋芸術大学研究紀要、査読無、第 35 巻、2014、297-311

〔学会発表〕（計 5 件）

① 舟橋三十子、日本人と音楽、シリーズ＜日本人とは＞、2016 年 3 月 27 日、朝日カルチャーセンター名古屋（愛知県名古屋市）

② 舟橋三十子、名曲から読み解くクラシック音楽のしくみ、2015 年 11 月 6 日、朝日カルチャーセンター名古屋（愛知県名古屋市）

③ 舟橋三十子、新しいソルフェージュ『フォルマシオン・ミュジカル』で音楽性・創造性を育もう～名曲で学ぶ音楽の基礎～、2015 カワイ音研会 10 月例会、2015 年 10 月 20 日、カワイ音楽教室三島センター（静岡県三島市）

④ 舟橋三十子、名曲から読み解くクラシック音楽のしくみ、2015 年 10 月 2 日、朝日カルチャーセンター名古屋（愛知県名古屋市）

⑤ 舟橋三十子、名曲のスタイル分析～ピアノ曲をつかって～、2014 年下半期ピアノ指導法シリーズセミナー第 3 回、2014 年 11 月 10 日、日響楽器池下店 2F ホール（愛知県名古屋市）

〔図書〕（計 15 件）

① 舟橋三十子、ヤマハミュージックメディア、クラシックのからくり～「かたち」で読み解く楽曲の仕組み、2016、184

② 舟橋三十子、音楽之友社、（WEB 連載コラム）みとこ先生の音大入試の楽典ガイド～名曲で学ぶ音楽の基礎～全 12 回、2014-2016、該当なし
http://www.ongakunotomo.co.jp/web_content/gakuten/index.html

③ 舟橋三十子、音楽之友社、フォルマシオン・ミュジカル～名曲で学ぶ音楽の基礎 I～楽典・ソルフェージュから音楽史まで、2014、104

④ 舟橋三十子、音楽之友社、フォルマシオン・ミュジカル～名曲で学ぶ音楽の基礎 II～楽典・ソルフェージュから音楽史まで、2014、104

〔その他〕
ホームページ
http://www.formationmusicale.net/

６．研究組織

(1)研究代表者
舟橋　三十子（FUNAHASHI, Mitoko）
名古屋芸術大学・大学院音楽研究科・教授
研究者番号：００３６０２３０

(2)研究分担者
高田　幸子（TAKADA, Sachiko）
武蔵野音楽大学・音楽学部・准教授
研究者番号：９０４４５８３３

(3)連携研究者
小林　聡（KOBAYASHI, Akira）
愛知県立芸術大学・音楽学部・教授
研究者番号：５０２２５４８９